

わ な ぐら 和名倉百年の森



2001.9.30
会報第2号

発行:百年の森づくりの会 埼玉県さいたま市太田窪2034-1 TEL 048-885-6697 FAX 048-882-0245 e-mail: naitoh@saitama-j.or.jp

一步の森

会長 内藤勝久

21世紀の最初の年に植林をしたいという私たちの夢が去る6月9日に実現しました。当日の参加者は36名。埼大ワングルのOB・現部、会員、県庁・大滝村・東大秩父演習林の職員からなる混成パーティーでしたが、山に慣れ目的を知った人たちばかりで何の違和感もなく困難な作業に淡々と取り組んでいる姿に深い感銘を覚えました。しぶといスズタケを刈り払い、根を掘り起こし、13本のブナの苗木を植え、鹿などの被害を防ぐためのネットを張り巡らし作業は無事終了しました。36人でたったの13本かと思議に思われるかもしれませんが、苗木といっても根巻を施し、重いものでは30kg、高さも2mを超え、しかも藪の中を登るため、通常なら1.5時間のところがその倍もかかるほどの重労働だったのです。

その夜はキャンプファイヤーを囲み、学生たちが心

を込めて作ってくれた料理に舌づつみをうち、飲んで歌って、夜の更けるまでお互いの感動を交換し合いました。この感動を皆でいつまでも共有しようと第1号の植林地を「一步の森」と命名しました。

千里の道も一步から始まります。あと99歩で百年の森は完成することになりますが、越えねばならない大きな課題があります。造林小屋の建設と若者たちへの夢の伝承です。

設計図も固まりつつあります。埼玉大学にサークル「百年の森研究会(仮称)」発足の動きもあります。活動の輪もじわじわと広がり会員も300名を超える勢いです。源頭の一滴が色々なところから滴り落ちて源流となる日もそう遠くはなさそうです。皆様の更なるご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



「一步の森」はじめての植林

高岡正彦

第8回 百年の森ワーク (第1回植林ワーク)

期 日：2001. 6. 8～10

参加者：埼玉大学SWV 部員7名、SWV OB 14名
会員7名、大滝村1名、県林務課3名、秩父の建築士3名、東大演習林1名
計36名

6月3日

東京大学秩父演習林影森圃場よりブナの苗10本を購入。

6月8日

埼玉大百年の森テラス 14:30==買いだし==18:00 東大演習林苗畑==19:30 埼玉大秩父山寮

東大演習林苗畑に預かってもらっていた10本の苗と更に3本追加していただいた。

13本の苗を前にして、埼玉大学秩父山寮に泊まった先発隊20名は、明日の植林活動への意気込みを確認しあいました。今回は県林務課の方、秩父の建築士の方、新たな会員も先発から参加していただきました。埼玉大学秩父山寮は前夜祭のようでした。

6月9日

秩父山寮 6:00==6:30 鮫沢橋 (リヤカー搬送) 8:30 ゲート (設営・荷造り) 9:30-----12:00 仁田小屋跡-----13:00 一步の森 (1500m) 植林 16:00-----18:00 ゲート (泊)

朝からさらに10名のメンバーが集まり、まずは鮫沢橋まで車で移動。鮫沢橋の先が崩落しているため、ここから先は大滝村が準備してくれたリヤカーに装備、苗を積み運ぶ。また、この日のために、大滝村は崩落箇所にもリヤカーが通れるくらいの仮の道を設置してくれました。感謝！感激！！

リヤカーの総重量は500kgほどだったろう。



リヤカーを引く者、押す者、そしてリヤカーが通れるように落石を払う者と皆で協力してゲートまで空荷で1時間のところ、たっぷり2時間かけて運びました。ようやくゲート前に到着。ここにテントを張り、今回のキャンプ地とする。ここか

らは砂利道と山道が始まるので、道具と苗を分担して担ぎ、1500mまで運ぶことにした。3mを越える苗は、重さも30kgを越えるものもあり、持ちづらい。各々担ぎ方を工夫して出発。

ふつうなら30～40分で行ける仁田小屋跡まで、2時間以上かかってしまった。この分では、今日中どこまで作業できるか心配になった。

13:00に植林候補地(1500m)に到着。当初、13本転々と植える予定にしていたが(鹿よけにスズタケを残し、スズタケの中に植えようと考えていた)、結局 周囲50mのエリアのスズタケを刈り込み、まとめて植えることにした。50mの鹿よけネットは大滝村から提供していただいた。作業が決まると皆の動きがとても良く、あれよあれよと云う間に、スズタケを刈り込み植林完了。2アールほどの土地で、カラマツなどは切らなくても日当たりもよく、



ルートに近く管理しやすい適地である。カラマツは成長しているの、第2回の植林の機会までにまた同じようなところを探すのがよいと思われる。

植林が終わったところでみんなそろって記念撮影。

皆満足して下山。テント場でも今回の植林の成功を振り返り盛り上がった。

この日は午後から降りだし、夕方から本降りという天気予報だった。しかし星こそ輝かなかつたものの、降雨の気配はなかった。日ごろの行いの良い我々に天も味方してくれたようだ。

10日にかけての植林計画だったが、すでに十分な成果が上げられたし、疲れもあり、明日は登らずに撤収することにした。

6月10日

ゲート 7:30-----9:00 鮫沢橋 解散式

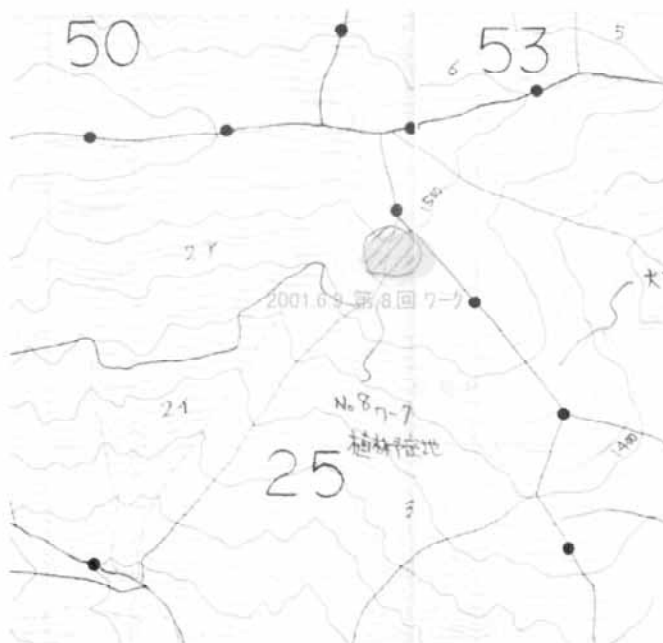
みんなの顔は満足に満ちている。帰りに大滝の湯につかって帰ることにした。

このようにして、第1回の植林ワークは大成功で終わった。

今回は、百年の森づくりの会に入会し、その上このワークに参加してくれた多くの仲間のほかに、大滝村の課長さん、県の林務課の方々、東大演習林の方、秩父の建築家、埼玉大学の先生の参加が得られました。多くの皆さんから協力をいただき、その期待をととても強く肌で感じました。もちろん、下準備から現場での力仕

事、そして食事等で活躍してくれた埼玉大学ワンダーフォーゲル部の学生諸君への感謝は、言うまでもありません。

今回の植林に終え、反省すべき点はしっかり反省し、さらに調査・研究も重ねつつ、第2回・第3回と植林ワークを盛り上げていきたいと考えています。今後ともよろしくご協力お願いいたします。



No.	日付	樹種	樹径(地際周)	樹高	植栽地
1	2001/06/09	ブナ	10.0	240	仁田小屋尾根1500m/25林班2ア小班・3小班
2	2001/06/09	ブナ	6.0	170	同上
3	2001/06/09	ブナ	9.0	210	同上
4	2001/06/09	ブナ	9.0	240	同上
5	2001/06/09	ブナ	9.0	290	同上
6	2001/06/09	ブナ	8.0	235	同上
7	2001/06/09	ブナ	8.0	240	同上
8	2001/06/09	ブナ	12.0	290	同上
9	2001/06/09	ブナ	9.0	290	同上
10	2001/06/09	ブナ	7.5	240	同上
11	2001/06/09	ブナ	7.0	165	同上
12	2001/06/09	ブナ	6.5	160	同上
13	2001/06/09	ブナ	4.5	140	同上

和名倉山仁田小屋尾根植生調査 概要報告

埼玉工業大学深谷高等学校 市川嘉一

I はじめに

8月2日、3日に、埼玉県高等学校生物研究会の夏季現地研修会植生調査が和名倉山仁田小屋尾根において行われました。私は埼玉県動植物総合調査委員会の8名と共に調査に参加しました。フロラ調査（植物相調査・観察された植物の記録・まとめは浦和第一女子高校牧野彰吾校長）と方形区調査（方形区内の植物調査・まとめは熊谷女子高校三上忠仁先生）の結果に基づき、方形区調査を中心にその概要を報告します。なお調査結果の詳細は来年3月末に発刊される「埼玉生物第42号」に掲載される予定です。

II 方形区と調査方法

■ 方形区を右図上の11箇所に設けた。

No.11 和名倉山山頂	2036m
No.10 尻無尾根シラビソ林	1950m
No.9 尻無尾根下ダケカンバ疎林	1850m
No.8 テントサイト	1760m
No.7 仁田小屋尾根北西斜面	1750m
No.6 仁田小屋尾根北西斜面	1750m
No.5 一步の森わきの二次林	1470m
No.4 一步の森わきカラマツ植林値	1470m
No.3 イヌブナ平	1430m
No.2 イヌブナ平の下	1370m
No.1 イヌブナ平の下	1260m

■ 調査方法

方形区 No.1～8は10m×10m、No.9～11は5m×5mの方形枠を設置。高木層（Ap）、亜高木層（As）、第1低木層（F1）、第2低木層（F2）、草本層（H）、つる植物（C）、コケ層（M）

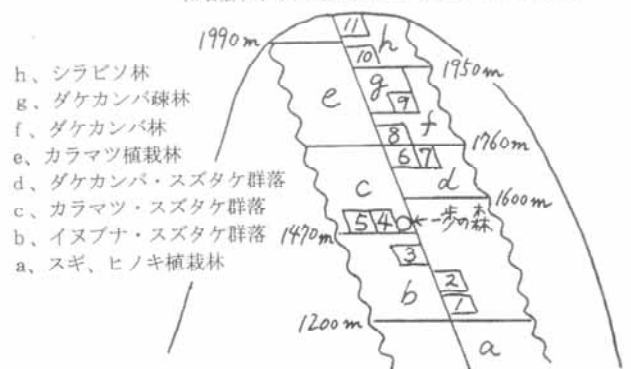
に分けて調査した。なお、コケ層については現地で採集し、現在同定作業につき本報告には未掲載。

■ 調査結果例（No.8方形区）

高木層は16mで被度90%、亜高木層は10mで被度75%、種別合計は胸高断面積の合計。優占度の最大は5。この方形区は（f）の地域で、優占度からダケカンバ林と言える。

2001.8.3	和名倉山	1760m	記録:牧野・山下・木村・田中 市川・斉藤・石川・三上 記入:矢島		AP:16m:90% As:10m:75%			
10×10	テントサイト				F1:6m:40% F2:1.3m:1%			
調査地	No. 8	角度:6度	方向:N10E		H:40%	C:3%	M:30%	
階層	種	種別合計	胸高合計	割合(%)	被度	優占度	成木	枯木
Ap	ダケカンバ	1532.69		74.00	66.60	4	11	
Ap	オガラバナ	538.39		26.00	23.40	2	5	
Ap	シラビソ		2071.08					1
As	シラビソ	318.21		43.03	32.27	3	3	2
As	オガラバナ	229.01		30.97	23.23	2	6	
As	ナナカマド	92.63		12.53	9.39	1	3	
As	リュウブツ	33.03	739.50	4.47	3.35	1	2	
F1	シラビソ	46.57		31.23	12.49	2	1	3
F1	ネコシデ	63.04		42.28	16.91	2	5	1
F1	ダケカンバ							1
F1	ミヤマアオダモ	14.52		9.74	3.90	1	1	
F1	オガラバナ	9.08		6.09	2.44	1	1	
F1	ヨダソミネバリ	15.90	149.11	10.67	4.27	1	1	
F2	サビバナナカマド							
F2	コミネカエデ							
F2	ウリハダカエデ							
H	シラネウラボ				39	3		
H	マイヅルソウ				1	1		
H	シロヨメナ				1	1		
H	コミヤマカタバミ							
H	バイカオウレン							
H	ヒメノガリヤス							
H	ミヤマタニタデ							
H	タニギキョウ							
C	イワガラミ				3	1		

和名倉山仁田小屋尾根植生概念図（8月改定）



III 各方形区の植生概要

No. 1 高木層は18mでイヌブナが優占している。亜高木層は10mでヨグソミネバリが優占している。第1低木層はアセビが優占し、ミズナラも見られた。第2低木層はスズタケが被度80%と優占している。

No. 2 高木層は16mでダケカンバが優占するがウワミズザクラ、ウリハダカエデも多い。亜高木層は8mでウワミズザクラが優占し、ホオノキ、クマシ

デ、ヤマボウシも多い。第2低木層はスズタケのみ。

No. 3 高木層は20m、被度98%でイヌブナが優占しているが、ブナの大木も1本ある。他にヨグソミネバリ、ダケカンバ。コミネカエデは高木層から第1低木層まで見られた。第2低木層は1.3mのスズタケのみ。

以上3つの方形区のうちNo. 2はダケカンバが優占するが、周囲にはイヌブナが見られるのでこの地域(b)は全体としてはイヌブナ・スズタケ群落と考えられる。フロラにはツガ、モミ、コハウチワカエデ、ハウチワカエデなども見られた。



イヌブナ平の方形区調査

No. 4 高木層は16m、被度85%で植栽によるカラマツが優占している。カラマツ7本に対し、ウダイカンバ、ダケカンバが1本ずつ入り込んでいる。第2低木層は1.3mで被度100%、スズタケが密生。

No. 5 No. 4に隣接する下の斜面。高木層は18m、被度85%で植栽によるカラマツが優占している。カラマツ5本に対し、ダケカンバ、バッコヤナギが1本ずつ入り込んでいる。亜高木層は10m、被度20%でコミネカエデ、コシアブラ、イタヤカエデが見られる。第2低木層は1.3mで被度100%、スズタケが密生。

以上2つの方形区とも下草にスズタケを伴う植栽されたカラマツ林で、この地域(c)はカラマツ・スズタケ群落と考えられるが、ダケカンバ、バッコヤナギ、カエデ類が入り込み混生林化しつつある。フロラ

にはシラカンバ、ナナカマド、カントウマユミ、ヒロハツリバナ、リョウブ、ムシカリなども見られた。

No. 6 高木層は16m、被度70%でダケカンバが優占している。他にナナカマド、オガラバナ。亜高山性の植物は亜高木層にイラモミ、第1低木層にコメツガ、シラビソ、第2低木層にトウヒが見られ、第1低木層のネコシデは25本あった。第2低木層に優占するスズタケの被度は85%。

No. 7 No. 6に隣接する下の斜面。高木層は16mでダケカンバが優占している。他にコミネカエデ、ナナカマド。第2低木層のスズタケの被度は5%。コメツガの被度は8%。草本層にはマイヅルソウ、シノブカグマ等。

以上2つの方形区は隣接しているものの、No. 6はこの地域(d)を代表するダケカンバ・スズタケ群落と言えるが、No. 7はむしろNo. 8に近く、ダケカンバ林と言える。フロラにはコバノトネリコ、シラビソ、ウラジロモミ、ウラジロヨウラクなども見られた。

No. 8 調査結果として前掲。

No. 9 高木層は10mでダケカンバのみ6本あった。第1低木層は3mでヤブウツギが2本。草本層にはヒメノガリヤスが被度55%、マルバダケブキが被度8%。

No. 9の方形区はダケカンバ疎林(g)の中でも木の多い所に方形枠を設置した。黄色い花をつけたマルバダケブキの群落が印象的だった。フロラにはミヤマウラジロイチゴ、ミヤマニガイチゴ、サビバナナカマド、ヒメスゲ、シラネワラビなども見られた。

No. 10 高木層は13m、被度60%でシラビソが優占している。他にトウヒ。亜高木層にサビバナナカマド。亜高木層のシラビソ14本と第1低木層のシラビソ5本の樹皮を剥かれた枯木が目立った。

No. 11 高木層は10m、被度60%でシラビソが優占しているがトウヒも多い。亜高木層は6mで被度90%、シラビソが優占しているがコメツガやコミネカエ



ダケカンバ疎林での方形区調査



マルバダケブキの花咲くダケカンバ疎林

デもあった。

以上2つの方形区は(h)の地域内に有り、トウヒやコメツガを含むがシラビソ林と言える。No. 10の多量の枯木は鹿の食害によるものと思われる。No. 11の林床には蘚類が多く倒木更新が行われている。フロラにはコヨウラクツツジ、セリバオウレン、バイカオウレン、ギンリョウソウ、マイヅルソウなども見られた。

IV 百年の森づくりへの提言

今回の調査で仁田小屋尾根の植生が詳しく調べられました。百年の森づくりの会が「一步の森」としてブナの苗木を植林したカラマツ・スズタケ群落にはダケカンバやバッコヤナギ、カエデ類が既に侵入していました。

先日、秩父でも数少ないブナの原生林があると言わ

れている仙元峠(1444m)に登ってみました。標高850m程からブナは姿を現し、1300m程から上はミズナラ、ダケカンバ、ホオノキ、カエデ類などと混生林を作り、仙元峠付近の長沢背稜に続く尾根上には、胸高直径が40~80cmほどのブナの大木が林立していました。

ブナの種子が成木になるまでには80年程かかり、陽樹のカラマツ林が陰樹のブナ林に移り変わるまで200年以上かかると言われています。しかし太平洋型のブナ林では、乾燥化の影響やスズタケの為か稚樹が育っていないのが現状です。

カラマツ林内の空いた空間を探し、その下のスズタケを刈り、工夫して軽量化したブナやミズナラの苗を気長に植え続けることで、太平洋型ブナ林をよみがえらせることができるのではと思います。

今回の調査に当たられ、ご指導していただいた動植物総合調査委

員会の先生、寝食の面でサポートしてくれた百年の森づくりの会の仲間へ感謝します。



ダケカンバ疎林より雲取山を望む

平成 13 年度上期の活動報告

■ 第 1 回通常総会開催

百年の森づくりの会第 1 回通常総会が 5 月 20 日（日）午後 1 時 15 分から大宮ソニックシティ市民ホールにて開催されました。内藤会長より「百年の森づくりの会」の発足から総会に至るまでの経緯と意義についての挨拶の後、来賓として、当会名誉会長の埼玉大学学長兵藤 釗氏、埼玉県農林部次長藤井克己氏よりご挨拶をいただきました。

その後、内藤会長が議長となり、平成 12 年度事業報告・決算（案）および平成 13 年度事業計画・予算（案）について審議され、原案通り承認されました。

総会后、特別講演会を開催し、170 名におよぶ多くの参加をいただきました。第 1 部で埼玉大学地域共同研究センター長坂本和彦氏を講師として、「中国における酸性雨と森林保護」、第 2 部では、登山家田部井淳子氏に「山からみた自然環境」について講演をいただきました。坂本氏は専門的な立場から中国の環境問題が日本に与える影響をわかりやすくお話しされ、また、田部井氏は登山家として世界を歩いてきた経験から、環境保護の大切さを語っていただきました。参加者一同、熱心に聞き入っていました。講演後、坂本氏、田部井氏を交えて、約 50 名の会員と懇親会が開催され、和気藹々のうちに終了することができました。

■ 第 8 回百年の森づくりワーク実施

6 月 8 日（金）から 10 日（日）に、第 8 回のワークを実施しました。当日は 36 名の参加をいただき、第 1 回目の植林を行い、13 本のブナの苗木を植えました。植栽した場所を「一步の森」と命名しました。詳細別掲。

■ 仁田小屋尾根植生調査

8 月 2 日から 3 日に、埼玉県高等学校生物研究会埼玉県動植物総合調査委員会の先生方 9 名により、和名倉山仁田小屋尾根の植生調査が実施されました。調査は、1260 m から和名倉山の山頂 2036 m まで 11 区分で行われました。詳細別掲。

今後の主な活動計画について

■ 第 9 回百年の森づくりワーク実施

日 時：10 月 26 日（金）～ 28 日（日）

内 容：次回植林地の調査、種・苗拾い。ゲートから 1555 m 付近のルート整備

参加希望者は、下記事務局まで、電話、FAX、電子メールにてご連絡ください。参加者には、後日スケジュールなどご案内します。

【事務局】〒 336-0015 さいたま市太田窪 2 0 3 4-1

百年の森づくりの会 会長 内藤勝久

TEL 0 4 8 - 8 8 5 - 6 6 9 7

FAX 0 4 8 - 8 8 2 - 0 2 4 5

E-mail naitoh@saitama-j.or.jp

■ 百年の森交流会 in 埼玉大学学園祭

日 時：11 月 23 日（金）13：00～16：00

場 所：埼玉大学内 百年の森テラス

〒 338-8570 さいたま市下大久保 255

JR 京浜東北線北浦和駅下車 国際興行バス（埼玉大学行き）20 分

JR 埼京線南与野駅下車 国際興行バス（埼玉大学行き）10 分

内 容：「百年の森づくりの会」活動状況の展示およびビデオ上映

会員の皆様との交流会を開催したいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

■ 現会員 (会員番号 氏名 住所)

■ 「百年の森文庫」をご利用ください。

埼玉大学客員教授で登山家でもある加藤司郎氏から登山に関する貴重な書籍を寄贈していただきました。当会では、これらの書籍を基に「百年の森文庫」として、広く会員の皆様に利用していただきたいと考えております。また、はじめられた植林活動は、林業のあり方や地域の活性化、環境教育、環境保護活動の行方を多面的に追求するものとして、多くの団体の経験を交流させ、方向付けていく活動としても、多くの資料を必要としています。今後、皆様のご意見や体験、資料などをお寄せいただき、多方面に膨らむ交流活動の場として「百年の森文庫」を充実させていきたいと考えております。文庫内容はインターネットで公開いたします。ご希望の方は、eメールまたは FAX でお問い合わせください。

文庫の一例

著者	著名	副題	出版社
	山の本	1 とっておきの次の山	白山書房
	山の本	2 何をしようか秋の山、冬の	
	山の本	3 森を歩く	
	山の本	4 山に泊まれば	
加藤司郎	山ありて幸いはみ出し役人の山小屋再建記その後		白山書房
加藤司郎	雁峠だより	はみ出し役人の山小屋再建記	
青木慧	ゼロからの山里暮らし		あすなる社
浅沼利一郎	宮沢賢治と早池峰を翔る		
足田輝一	雑木林の博物誌		新潮社
新井信太郎	雲取山よもやま話		さきたま出版会



■ 会員募集しています。

年会費 個人会員 2,000円

法人会員 10,000円

郵便振替 00140-0-555239 百年の森づくりの会

銀行振込 あさひ銀行 南浦和支店
普通預金口座 No 3835666
百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久

編集後記

大滝村から三国峠をこえると高原野菜の生産で知られる川上村に行くことができます。そこはまた、カラマツ植林事業の発祥の地でもあり、よく手の入れられた林は美しく、村人の意気が伝わってきます。加工技術の取り組みも多岐にわたり、カラマツの高温脱脂乾燥材や集成材は、この樹を見つめる村人の知恵ともいえます。林業の可能性と環境保護の未来が、村の生活の豊かさの中に見えるようで、和名倉に植えられた 40 万本のカラマツには、そのような先人たちの願いが、あるいは込められていたのでは…。そのような和名倉の森を大切にしたい。